

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月12日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--|
| 事業所番号 | 1171100314 |
| 法人名 | 有限会社 寿老会 |
| 事業所名 | グループホームひだまりの家 栗橋 |
| 所在地 | 〒349-1125 埼玉県北葛飾郡栗橋町小右衛門887-2 (電話) 0480-53-0770 |

| | |
|-------|---|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター |
| 所在地 | 〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ |
| 訪問調査日 | 平成20年11月6日 |

【情報提供票より】(平成20年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------|----------------------------|-----|
| 開設年月日 | 平成12年4月1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 12 人 | 常勤 3人, 非常勤 9人, 常勤換算 4.98 人 | |

(2) 建物概要

| | |
|------|--------------|
| 建物構造 | 木造造り |
| | 2階建ての1階～2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-----------------|----------------|--------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 39,000 円 | その他の経費(月額) | 18,000円 + 実費 | |
| 敷金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(100,000円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 | |
| 食材料費 | 朝食 | 400 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ | 100 円 |
| | または1日あたり 1,300円 | | | |

(4) 利用者の概要(10月10日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 6 名 | 男性 | 1 名 | 女性 | 5 名 |
| 要介護1 | 0 名 | 要介護2 | 2 名 | | |
| 要介護3 | 2 名 | 要介護4 | 2 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 76.5 歳 | 最低 | 50 歳 | 最高 | 93 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|--------------|
| 協力医療機関名 | 堀中病院、芝田クリニック |
|---------|--------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、「つつがない日々の暮らし」を基本理念に掲げて、ホームの名前に沿った家庭的であたたかいホームを目指している。木造2階建てで、住宅地の一角にあり、道路を挟んで向かい側には、桜並木や公園が連なり、自然との触れ合いや季節の変化を楽しめる環境にある。居室は、フローリングと畳部屋があり、利用者が馴染みやすい部屋作りが可能である。ベランダでの日光浴や田園風景を眺めながら、利用者と職員はゆったりした時間を共有し、つつがない日々を過ごしているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との連携については、近隣者はホームの夏祭り等に参加し、利用者と交流する機会があるが、自治会に加入していないこともあり、組織的に連携するまでには至っていない。前回の課題や改善策については、職員間で話し合っている段階である。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ケース会議や引継ぎ時に、職員間でサービスの振り返りや改善課題を明らかにしている。自己評価票については、職員が目にするところにあるが、全職員での取り組みには至っていない。</p> |
| 重点項目 | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には町の担当者が出席しており、主に地域密着型サービス、開かれたグループホームのあり方、認知症等について話し合いをしている。家族と近隣の参加者は、さらに自治会長や地域包括支援センターの参加を期待しており、運営推進会議の活性化に向けて取り組んでいる。</p> |
| 重点項目 | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会を開いた際に意見や要望を聞くとともに、家族が行事に参加した際のさりげない話を大切にしたり、面会時には家族と懇談しながら意見を出せるように心がけている。また、遠距離家族の負担等を配慮しながら、家族の意見を反映させる運営に取り組んでいる。</p> |
| 重点項目 | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームで行う夏祭りには、近隣者やボランティアの参加があり、利用者、職員が地域の人と交流する楽しい機会となっている。地域の人とは、散歩時に挨拶を交わしたり、野菜の差し入れをいただきなど、日常の交流を大切にしている。地域の情報を得てイベントにも参加する方針で取り組んでいるところである。</p> |

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|-------|--|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「つつがない日々の暮らしをサポートする」という理念のもと、3つの介護目標をあげて介護サービスに取り組んでいる。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念と3つの介護目標をリビングに表示し、管理者と職員は、申し送りやミーティング時に確認しながら、日々の実践に向けて取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | ホームの夏祭りに近隣の人に参加したり、時々野菜の差し入れがある。自治会や老人会に入っていないこともあり、地域の情報量も少なく、地域との組織的活動には殆ど参加する機会がない。 | | 自治会等に参加して情報を収集し、地域活動や行事に参加するなど地域住民との関わりを積極的にもち、交流を図りながら地域密着型サービスのホームとして発展することが期待される。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 月1回の会議で、日々の取り組みの振り返りを行っている。外部評価の課題や改善策について話し合いをしているが、具体的な改善までには至っていない。 | | 自己評価については、管理者だけでなく運営者・職員全体で取り組み、課題の解決に向けて評価を活かした取り組みが期待される。 |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、家族の参加が中心となる傾向にある。町の担当者は協力的であるが、休日に会議を計画すると参加が得られないこともある。 | | 地域包括支援センターや自治会長、地域の代表的な方など幅広い立場の人の安定した参加を得ることで、ホームの運営や利用者への理解を深めていただき、サービスの向上に向けた取り組みを期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|-----|--|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 行政的な手続きについての書類を受けに行ったり、福祉課との連携等が図られている。なお、グループホームのサービスの質については、主に運営推進会議で話し合われている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 年4回発行のホーム便りとミニ便りに写真を添えて送付することで、利用者の近況や健康状況について報告している。また、心身の変化等については電話等で連絡している。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年2回、家族会を開き、家族の意見や要望を聞いている。また、家族が行事に参加した際や面会時には、意見を出しやすい雰囲気をつくり、運営に活かすように努めている。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動等については、利用者の状態や関係性を考慮しながら個別に対応し、ダメージをできるだけ抑えるように配慮している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 会社本部からの連絡によって、管理者が職員に研修について周知しており、旅費及びテキスト代は会社が負担している。休日を利用して研修に出席するため、参加状況はまだ十分とは言えないが、内部での研修報告会で研修内容を共有するようにしている。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 系列会社間の会議が毎月実施されており、管理者間の交流の機会となっている。職員が同業者と交流する機会や勉強会等の活動は殆どなされていない状況である。 | | 職員においても系列会社間の交流を持つとともに、地域包括支援センターの協力を得て近隣のグループホームとも交流していくことが期待される。また、同業者でネットワークを作り、勉強会や相互訪問によるサービスの質の向上に期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|---|-----|-----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>入居前には、本人や家族と面談する機会を設けるとともに、ホームでの生活状況や利用者の様子等を見学してもらい、本人、家族が納得した上で入居できるように支援している。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>利用者と職員は、生活や家事を一緒に行い、洗濯物の片付けや草花の手入れ等こまごましたことを利用者から学び、支えあう関係を築いている。</p> | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>散歩の時など1対1で対応している際に、さりげない話をしながら思いを聞き、本人の意向の把握に努めている。</p> | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>本人や家族との面談時や関係者からの情報を基に、職員が観察した結果を話し合いながら、利用者本位の介護計画を作成している。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>定期的な介護計画の見直しを行うほか、医療・健康状態や人間関係等に変化が生じた場合は、本人、家族、関係者と話し合い、随時、介護計画の修正を行っている。</p> | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人や遠距離家族の要望に応じて、眼科・歯科受診の同伴介助を実施したり、小規模の特徴を活かした取り組みを可能な限り支援している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ホームの協力医による月1回の往診があり、かかりつけ医と連携をとりながら適切な医療を受けられるように支援している。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化してきた場合や終末期については、入居当初に家族と話し合い、ホームの方針に沿う旨の承諾を得ているが、具体的なあり方については明示されていない。 | | ターミナルケアについて、ホームとして何が出来るか、何処まで介護出来るか等、管理者と職員は協力医や看護職と話し合い、確認したことを文章にまとめて、全員で具体的な方針を共有することが期待される。 |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 個人の誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉遣いや対応には、常に注意を払っている。記録類等の個人情報については鍵のかかる保管庫で管理している。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の暮らしの中で、一人ひとりのペースや希望に沿うように支援している。自由に過ごせる時間や睡眠時間においても、個人の希望を尊重して支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|--|---|-----|--|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立や食材については業者が搬入したものを活用している。職員が利用者の好みに合わせて調理し、配膳や後片付け等、利用者の出来ることを活かせるように支援している。外食等利用者の希望を取り入れ、食事を楽しめる支援をしている。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴支援は週3回行っている。職員体制の関係もあり時間帯も決めているが、浴槽も広く、ゆったりと快適に入浴できるように支援している。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 年間計画では、利用者の意見を聞きながら誕生会、お花見、納涼祭等を企画し、実施に当たっては利用者の喜びや生きがいになるように働きかけをしている。日常生活では、個人の力や得意とすることが自主的に発揮できるよう支援している。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | ホーム周辺や湖までの散歩、スーパーマーケットへの買い物、外食等、利用者の希望に合わせて気分転換できるように支援している。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵は夜間のみ施錠しているが、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者の外出したい雰囲気や察知するとともに、一緒に外出したり、気分転換を図っている。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 日頃よりデッキから外出することが多く、避難口として最適であることをわかってもらうように働きかけをしている。また、近隣者にも非常時の協力をお願いしている。消防署との避難訓練については計画だけで実施に至っていない。 | | 消防署の協力を得て、消防設備、初期消火、避難訓練の実際について、職員、利用者、近隣者の参加のもと実施されることが求められる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|---|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食材は業者からの搬入によるもので、栄養バランスやカロリーが表示され適正である。栄養状態に注意を必要とする利用者については、医師と相談しながら調整している。また、水分の補給は、一日を通して摂取できるよう配慮している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関、リビング、廊下等の共用空間は掲示物等季節感のあるものを取り入れており、家庭的な雰囲気である。南側には庭があり、草花や野菜作りを楽しめるスペースとなっている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は、フローリング・畳部屋の特徴を活かし、各利用者が好む調度品が持ち込まれ、家族写真や位牌等も置かれて、本人が安心して居心地良く過ごせる配慮がされている。 | | |